

Q 高尿酸血症・痛風に対する喫煙の影響について教えてください。

A

喫煙と高尿酸血症・痛風との関連については数多くの報告がなされており、最近の総説¹⁾でも300件以上の論文が引用されている。日本人について、Nakanishiら²⁾は男性1,365名を6年間観察し、新たに高尿酸血症を発症するリスクは、喫煙者で非喫煙者に比べて有意に低かったと報告した[ハザード比：0.65, 95%信頼区間(CI)：0.46～0.92]。一般的に男性において、喫煙者は非喫煙者に比べて血清尿酸値が有意に低いことが報告されている¹⁾。しかしその差は小さくなく、水野ら³⁾による日本人男性喫煙者4,462名、非喫煙者1,256名の調査では、血清尿酸値の差は0.1～0.2mg/dL程度であった。

喫煙を止めた後の禁煙者における血清尿酸値の変化を検討することによって、喫煙の影響を評価することも行われている。水野ら³⁾は、1996～2000年の間に禁煙した男性369名を検討し、血清尿酸値が4年間で5.7から6.4mg/dLへと有意に上昇したことを見出した(喫煙者もこの間、5.7から5.9mg/dLへとわずかに上昇)。禁煙に伴い一般的に体重が増加し、体重増加は血清尿酸値を上昇させる。水野ら³⁾の集団では、

1.67kgの体重増加をみたが、体重の変化だけでは禁煙後の血清尿酸値の上昇は説明できなかったと報告している。Suwazonoら⁴⁾も、禁煙後の3年間の血清尿酸値が連続して測定された445名の日本人男性と、喫煙を続けていた2,672名とを比較し、3年後に体重が禁煙者で1.9kg、喫煙者で0.5kg増加したが、血清尿酸値は体重の影響を補正したのちも、禁煙者で喫煙者よりも有意に高く、その差は0.23mg/dLであった

と報告した(図1)。喫煙自体によって血清尿酸値が低下するメカニズムとして、喫煙によって生じた酸化ストレスが、尿酸を含めた血液中の抗酸化物質濃度を低下させることが報告されている⁵⁾。

海外でも、喫煙は血清尿酸値の低下と関連するという報告が多いが、変化しないとする報告や逆に上昇するとの報告もある¹⁾。また女性においては、喫煙によって血清尿酸値が上昇するとの報告が男性よりも多い¹⁾。喫煙が尿

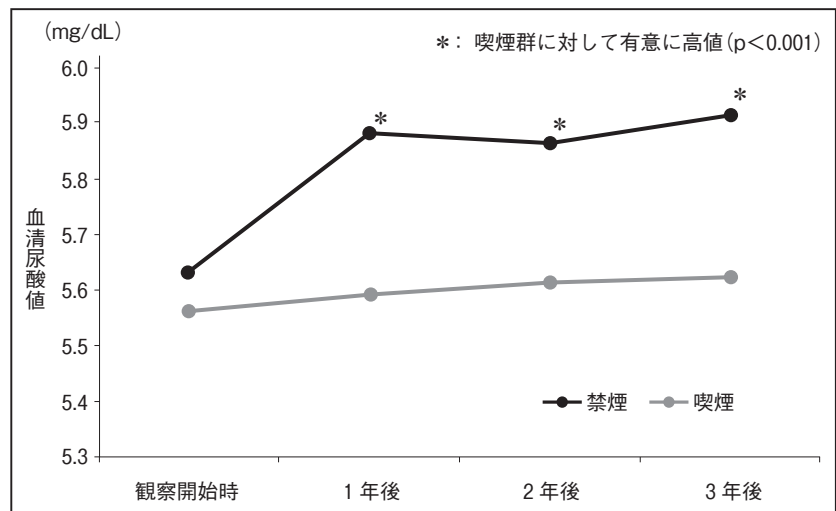


図1. 血清尿酸値に及ぼす禁煙の影響

(文献4)より作成)